

### じゅんちゃん一座



ユーモアを交えて寸劇を披露する空家たち(壮年劇団野町で)

### 青森県十和田市

認知症患者や家族の日常を、方面と合わせた寸劇の寸劇で披露する。認知症の知識、適切な対応を笑いながら学べると評判を呼び、語られての演は県内外で200回以上上演。

### 寸劇通し認知症伝える

認知症のしつとめ対策の場所を捉えて録取った寸劇。妄想する内容の寸劇を披露。家族のいがみ合いや通院するパターンと適切な対応で円滑な結果を導くパターンを紹介する。と、客席には笑いもあふれた。

### NPO法人 居場所創造プロジェクト



健康サロンで指先の運動をする住民

### 岩手県大船渡市

東日本大震災で被災した大船渡市末崎町で、交流施設「居場所ハウス」を開設し、高齢化進む地域の活性化に取り組んでいる。

### 被災地 役割見つけ活動

行なう、住民の生活基盤も支えている。震災後、多数の住民が仮設住宅へ入居を余儀なくされ、コミュニティの再生が課題になった。米国の非営利団体の支援がきっかけ、2013年に法人を設立。理事長を務める鈴木軍平さん(65)は「高齢者が地域の中心で、自分たちの役割を見つけていくことが大切」と語る。干し柿の生産やツバキ油の搾取となるツバキの種の採集など、高齢者が主体の活動も多い。

### 平戸平和台地区地域運営協議会



おそろいのパンダとエプロンをつけてヒーフィンチャーを食べるお年寄り

### 横浜市戸塚区

空き家を活用した「地域交流拠点」(C)「ハウス」で、子どもから高齢者まで幅広い世代間交流に動いている。代表の望月信之さん(70)は「空き家を活用して、おもしろい活動がしたい」と話している。

### 空き家活用 世代間交流

りの良い豊後産の広い自給がある空き家を借りてオープンした。ランチや手芸を楽しむ「C(コミュニティ)」では、訪ね人がそれぞれ得意分野を生かして、料理や片付けなどを分担する。男性利用者を増やすために始めた「一泊の口サロ」は、多い時で約40人が集まり、お酒を片手に語り合う。新型コロナウイルスの影響で3月から約1か月間活動を休止したが、再開後は「他に行く所がない」という理由で、「誰かお話をしたい」という一人暮らしの高齢者が女性の交流を楽しんだ。



### 読売福祉文化賞

新しい時代を支えたい福祉活動を表賞している団体や個人を顕彰する「読売福祉文化賞」の受賞団体が決まった。題目を巡る今年度は、一般部門で不妊に悩む人たちに経験者や希望者向けに支えたい「NPO法人Fine」(東京都江東区)など3団体、高齢者福祉部門で認知症への対応法を専門家による講義と寸劇で伝える「じゅんちゃん一座」(青森県十和田市)など3団体が選ばれた。受賞団体には活動資金として100万円が贈られる。各地域で福祉の向上に取り組む各団体の活動を紹介します。

### NPO法人 Fine



イベント開催に向け準備を進める松本さん

### 東京都江東区

不妊に悩む人支援者や寄り添い、支える活動に取り組む。理事を務める松本直子さんは「不妊治療を経験したひらひら。活動の原動力は、約20年前に自身が発症を受けて、たまたま出会ったインターネット上の掲示板に出会ったことだ。

### 不妊への理解 支え広げ

も多いという。費用面や治療と仕事の両立、五回の卵巣手術でできた心が救われた。黙っていても世の中は変わらないう。患者の思いを社会に知ってもらおうと、2010年に団体を設立した。専門知識を持つカウンセラーの養成や、経験者の話を聞けるイベント開催を手掛ける。中学校和高等生徒が不妊を学ぶアプリを開発などを目標に掲げている。活動の時は忙しなり、会員は2400人。

### 認定NPO法人 愛実の会 人形劇団紙風船



インターネット配信用にせりふの収録をするメンバー

### 名古屋市港区

重度の障害を持つ人が利用者のメンバー13人が、サボットのスタッフや人形と三位一体になり、地域の子どもや学校、幼稚園、病児など人形劇の公演活動をしている。1986年、旧愛知私立港豊徳学校の生徒5人が人形劇を始めたのがきっかけ。その後法人の第一部門となったが、人形製作や演技指導の支援をアプリに受けながら活動は本格化。24年

### 偏見・差別取り除く公演

間での公演は500回を超え、2000年のフランス国際人形劇フェスティバルに参加。13年には、別府開演「アリス」でも紹介された。昨年7月からメンバーに加わった加藤愛さん(49)は「人形を操っていると、まるで自分が自由に動いているみたい」と話している。公演後、「失敗を恐れないで挑戦する姿に感動」と「自分も頑張ろうかな」という声も聞かれた。スタッフも増え、今年2月以降は公演活動が休止になった。しかし、新作の練習に熱心だし、リモート公演の準備を進めたい。新たな活動を模索している。(中部支社・原田展)

### 認定NPO法人 プール・ボランティア



障害者とプールに入るボランティア(大阪府東成区で)

### 大阪市中央区

障害者が一般の市民プールでボランティアからマンツーマンで泳ぎ方を教えてもらえる活動を21年間続けてきた。「水泳教室」は大阪を中心に近畿圏のほか、プールではほぼ毎日開催される。参加する障害者は年間延べ約4000人以上。活動を開始した当初は、障害者専用プールを知られるのが普通だったが、一歩でも進歩したい」と市民プールにたどり着き、管理員

### 誰もが楽しめる水泳へ

らと結び強く交渉を続けたり。やがて一般の利用者が「うまくなった」と声をかけてもらえたと増えた。どんな障害があってもプール遊びを楽しむよう専用の浮き輪や車いすも独自に開発。はしゃぐ子どもたちの姿にボランティアの園に笑顔が広がる。「障害者仲間なく『水好き』としてつながると理事長の目標は変わらないはず。新型コロナウイルスの影響で活動は3か月の休止を余儀なくされ、体力が落ち、食べ物の飲み込みづらくなった」などの声も聞かれた。「プールは生きるとてもあると実感した」と事務局長の織田智子さん(55)。コロナ禍でボランティアの確保も簡単ではないが、来年は開業での活動を再開するつもりだ。(大阪支社・中田賢登)

## 弾ける笑顔へ 寄り添う6団体

【富山県】 安藤隆太 東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー 女 櫻原小春 女性 シニア社会福祉会 高木恵司 和洋女子大学准教授 馬場 清 東京おもちゃ美術館副館長 保岡芳昭 読売新聞東日本社編集委員

### 高齢者福祉部門

### 一般部門